

フォーラム (どなたでも聴講無料. 参加登録不要)

※GIA フォーラム: GIA とは Government・Industry・Academia の略称です.

① ヒューマトロニクス I ~つなげるマルチメディアシステム~

5月18日(水) 10:00~12:25 アネックスホール F203+F204/2F

[テキスト: 会場価格 3,000 円 定価 4,200 円 (いずれも税込み)]

- 車のエレクトロニクス化が進み、インターネットやインフラとつながる車社会が目前に迫っている。マルチメディアシステムは車を通して社会と人との接点になるシステムであり、いかに人に使いやすいようにするか、また、いかに多くの有益なシステムを提供するかが非常に重要になっている。フォーラムを通して、将来の制御連携、インフラ協調を実現するためのマルチメディアシステムの将来像を議論し、人と繋がるための主要技術を探る。また、各技術領域との連携の仕方も検討し、車としての嬉しさを訴求して行く。

企画: マルチメディア部門委員会

プログラム

司会: 服部 雅之氏(トヨタ自動車)	11:15 広域走行制御による最適走行技術の研究開発 嶋田 香氏(早稲田大学)
10:00 挨拶 服部 雅之氏(トヨタ自動車)	
10:05 画像処理技術と運転支援システム 尾崎 信之氏(東芝)	11:50 つなげるクルマのセキュリティ 廣川 祐之氏(ルネサスエレクトロニクス)
10:40 クルマの情報化に向けた表示操作 HMI への取り組み 久門 仁氏(トヨタ自動車)	12:25 閉会

② これからの日本の自動車づくり~価値を生み出すためのものづくり力~

5月18日(水) 13:00~17:20 アネックスホール F203+F204/2F

[テキスト: 会場価格 3,000 円 定価 4,200 円 (いずれも税込み)]

- 2008 年秋のリーマンショックに端を発した世界不況も、中国など新興国の経済成長により、回復の兆しを見せ始めている。しかし、国内生産台数の落ち込み、円高の定着など、ものづくり力を基盤に発展してきた日本の自動車産業にとって、苦境は続いている。自動車づくりの現場も、中国、あるいはFTA(自由貿易協定)を最大限有効活用する東南アジアへ拡散し、日本の自動車づくりも輸出から現地生産への転換が図られつつある。しかし、日本の自動車産業がこれまで培ってきたものづくり技術を捨て去ることは出来ず、より価値のあるものづくり技術を生み出し、育み、そして世界に広めるというサイクルを継続していくことが肝要であろう。今回、自動車技術会の技術部門委員会の生産・製造・材料・リサイクルなどクルマのものづくり技術に係わる7委員会が集結し、自動車づくりの最新技術事例を分野ごとに紹介しあう中で課題と今後の展望を共有することを期待する。

企画: ものづくり関連合同委員会

プログラム

司会: 森 孝男氏(富山県立大学)	15:15 自動車におけるリサイクル技術の現状と将来動向 大矢 仁史氏(北九州市立大学)
13:00 挨拶 森 孝男氏(富山県立大学)	
13:10 構造形成を支えるシミュレーション技術 宮地 岳彦氏(JSOL)	15:50 パネルディスカッション 「価値を生み出すためのものづくり」 モデレータ 森 和男氏(産業技術総合研究所) パネリスト 西田 陽介氏(日本政策投資銀行) 丸山 慎一氏(トヨタ自動車) 荒木 敏弘氏(日産自動車) 山下 行秀氏(本田技研工業) 石田 恭聡氏(マツダ)
13:35 自動車設計を支える衝突安全シミュレーション技術 花田 裕氏(マツダ)	
14:00 材料でクルマを革新する日本のモノ作りを目指して ~買って貰える材料とは?~ 橘 学氏(日産自動車)	
14:25 日本の工場が生き残るための生産技術 中尾 政之氏(東京大学)	17:20 閉会
14:50 金型レス板材成形加工のためのレーザフォーミング CAMシステム 青山 英樹氏(慶應義塾大学)	

③ GIA フォーラム※：交通事故死傷者ゼロをめざして～予防安全の現状と展望～

5月18日(水) 9:30～12:30 会議センターメインホール/1F

[テキスト：会場価格 3,000円 定価 4,200円 (いずれも税込み)]

■ 近年の交通事故死傷者数は減少傾向にあるが、いまだに高いレベルにあり、また減少幅も減りつつある。本年2月には第9次の交通安全基本計画が策定され、5年間で死者3000人以下を目指すとされている。これまでに自動車技術としては種々の衝突安全対策がなされてきたが、今後は予防安全にもっと力を入れていく必要がある。本フォーラムは、自動車ジャーナリストの清水和夫氏率いるゼロクラッシュジャパンと共同で、2部構成で実施する。第1部は国土交通省からの基調講演と種々の立場からの話題提供によるパネル討論を行い、第2部は4名のジャーナリストによるゼロクラッシュトークを実施する。技術だけでなく総合的な対策による事故ゼロを目指す活動について議論を行っていく。

企画：将来の交通安全委員会

プログラム

司会： 鎌田 実氏(東京大学)	交通犯罪被害者の声 娘を“交通犯罪”で奪われて
9:30 挨拶 近森 順氏(自動車技術会名誉会員)	佐藤 清志氏(全国交通事故遺族の会)
9:35 基調講演 国土交通省の車両安全対策の取り組み	清水 和夫氏(ゼロクラッシュジャパン)
是則 武志氏(国土交通省)	是則 武志氏(国土交通省)
10:10 パネルディスカッション「予防安全の現状と展望」	11:30 座談会「ゼロクラッシュトーク」
モデレータ 永井 正夫氏(東京農工大学大学院)	ヒヤリハットを防ぐ安全技術
日本学会会議での議論	コーディネータ 清水 和夫氏
永井 正夫氏(東京農工大学大学院)	パネリスト 金子 浩久氏
パネリスト	島下 泰久氏
予防安全技術の開発と普及	岩貞 るみこ氏
山ノ井 利美氏(日産自動車)	(以上、ゼロクラッシュジャパン)
高齢者にやさしい自動車の開発について	12:25 挨拶 鎌田 実氏(東京大学)
古川 弘信氏(福岡県)	12:30 閉会
豊田市逢妻地域「安全・安心・ゆとりの通学路事業」	
三村 聡氏(愛知学泉大学)	

④ GIA フォーラム※：サステナブル社会と次世代自動車

5月18日(水) 13:00～17:30 会議センターメインホール/1F

[テキスト：会場価格 3,000円 定価 4,200円 (いずれも税込み)]

■ 資源・エネルギーの大部分を輸入に頼るわが国にとって、その安定供給は最重要事項であるが、各国の資源権益確保競争や資源価格上昇に見られるように、安定供給に係る内外の制約が厳しくなっている。一方、エネルギー利用に伴う地球温暖化問題から、エネルギー消費構造を低炭素化・サステナブルなものに変えていく必要があり、次世代の自動車技術や利用する資源・エネルギー源にもその対応が求められている。自動車用動力源として用いられてきた石油燃料は、今後もエネルギー供給の中核的インフラを提供するものと考えられるが、近年、既存の電力インフラを活用したPHV・EVの普及や、FCVの普及を目指す水素供給インフラの構築に向けた取組みも始まっている。また、将来自動車技術の核となる電池技術や、排ガス浄化触媒技術にはレアメタルの確保が重要である。本フォーラムでは、「次世代自動車エネルギー委員会」で議論されてきた次世代パワートレイン技術、レアメタルの確保、エネルギー供給インフラ、及びそれらを統合したコンパクトシティ等の社会インフラの話題提供をもとに、低炭素化・サステナブル社会実現のための次世代自動車パワートレイン技術、エネルギー供給インフラの役割と課題を明らかにする。

企画：次世代自動車・エネルギー委員会

プログラム

司会： 吉松 昭夫氏(トヨタ自動車)	司会： 山藤 靖之氏(本田技術研究所)
13:00 挨拶 杉山 元氏(日本自動車研究所)	15:00 EVの現状と将来
13:05 自動車関連産業の現状と方向性	清水 健一氏(産業技術総合研究所)
永野 喜代彦氏(経済産業省)	15:35 レアアースをはじめとするレアメタルの現状と問題
13:40 将来エネルギー供給予測	岡部 徹氏(東京大学)
古関 恵一氏(東燃ゼネラル石油)	16:25 パネルディスカッション
14:15 将来のエネルギー供給がもたらす影響	モデレータ 小川 英之氏(北海道大学大学院)
中田 雅彦氏(テクノバ)	パネリスト 講演者全員
	17:25 挨拶 杉山 元氏(日本自動車研究所)
	17:30 閉会

⑤ 自動車空調技術総合レビュー2011～自動車空調技術展望～

5月19日(木) 9:30～12:00 アネックスホール F203+F204/2F

[テキスト:会場価格 3,000円 定価 4,200円(いずれも税込み)]

■ 地球温暖化防止として、あらゆる分野での脱化石燃料化が検討・推進されてきている。その渦中において、車両動力源の電動化等により、冷房・暖房機能を支えるシステムも変革期を迎えている。今回、低炭素化の流れに対応する自動車空調技術内容を紹介して開発ニーズの理解及び、シーズを提起する。

企画:車室内環境技術部門委員会

プログラム

司会: 北野 善久氏(いすゞ自動車)	11:20 パネルディスカッション
9:30 挨拶	「低炭素社会に向けての自動車空調技術」
自動車空調の技術課題に関して	モデレータ 原 慎一氏(ヴァレオ サーマルシステムズ)
石田 修氏(本田技術研究所)	パネリスト 加藤 信介氏(東京大学)
10:05 空調システムについて～EV エアコン, 省エネ, 空気質～	杉 光氏(デンソー)
原 潤一郎氏(カルソニックカンセイ)	福林 誠氏(日産自動車)
10:40 快適性向上に関する取り組み～ISO 動向,	石丸 園子氏(東洋紡績)
空気質解析, CFD 等について～	松永 和彦氏(いすゞ自動車)
郡 逸平氏(東京都市大学)	12:00 閉会

⑥ 2030年, 乗用車用パワートレインの主流は?

～低CO₂時代に内燃機関は生き残れるか?～

5月19日(木) 12:30～15:45 会議センターメインホール/1F

[テキスト:会場価格 3,000円 定価 4,200円(いずれも税込み)]

■ 現在, CO₂ 低減の観点で電気自動車の話題が花盛りであるが, 一方でコンベンショナルな内燃機関の効率は確実に向上しており, 当面の現実的なソリューションとして非常に重要であると考えている。そこで, 日本, 欧州の自動車各社の開発責任者と大学, 官庁のいわゆる産学官3者で, 「2030年の乗用車用パワートレインの主流は何か?」について, 環境性能や動力性能, 商品性, インフラなども含めて議論し, 将来を正しく予測して, 多くの自動車技術会会員の皆様や市民の皆様にその内容を発信し, 正しく理解していただくことを狙いとする。

企画:ガソリン機関部門委員会

プログラム

司会: 島崎 勇一氏(トヨタ自動車)	14:15 Honda 次世代自動車パワートレインの方向性
12:30 挨拶 志賀 聖一氏(群馬大学)	三部 敏宏氏(本田技術研究所)
12:35 次世代自動車戦略について	14:35 将来のパワートレインのあるべき姿とその方向
笠間 太介氏(経済産業省)	人見 光夫氏(マツダ)
12:55 今後のエンジンの高効率化の可能性について	15:00 パネルディスカッション
大聖 泰弘氏(早稲田大学)	「2030年, 乗用車パワートレインの主流は?」
13:15 The Future of Powertrains at the BMW Group	モデレータ 河野 通方氏(学位授与機構)
Nevijo Mance 氏(BMW)	パネリスト 講演者全員
13:35 乗用車用パワートレインの方向性	15:45 閉会
田中 俊明氏(トヨタ自動車)	
13:55 パワートレインの将来と内燃機関	
富田 公夫氏(日産自動車)	

⑦ 交通事故傷害予測の実現に向けた具体策～産官学の連携が問題を解決する～

5月20日(金) 9:30～11:40 アネックスホール F203+F204/2F

[テキスト:会場価格 2,000円 定価 3,150円(いずれも税込み)]

■ 近年の交通事故の死傷者数は, 様々な対策が効果を挙げて減少傾向を示しているが, 国が掲げている2011年度からの第9次基本計画では「次の10年間で死者数半減」としている。そこで, 有力視されている削減のための手法の一つが「傷害予測」であり, これを精度良く迅速に行なうことが可能になれば, 特に死に至る可能性の高い重篤な傷害を負った場合の救命率が格段に高くなると言われている。しかし, 高精度で迅速な傷害予測には交通事故に関わる様々なデータの記録とそのデータの現場からの速やかな取得が必要である。これを解決するための方策として, EDRとACNの具体化が注目されている。そこで, 本フォーラムでは, EDRとACNの現状と具体化について解説するとともに, 傷害予測の最新の研究成果を紹介し, 広い

分野の人々に傷害予測の必要性と有効性を説くことにしたい。

企 画:交通事故傷害予測と予防・医療に関する検討委員会

プログラム

司会: 近森 順氏(自動車技術会名誉会員)	10:20 佐賀県における交通事故情報取得の取り組み 阪本 雄一郎氏(佐賀大学)
9:30 挨拶 近森 順氏(自動車技術会名誉会員)	
9:40 交通事故傷害予測と予防・医療に関する 検討委員会の活動報告	10:50 医工連携による交通事故被害低減に向けた 11:10 討論および挨拶 近森 順氏 (自動車技術会名誉会員)
宇治橋 貞幸氏(東京工業大学)	
10:00 これからの車両安全対策～医工連携を目指して 板崎 龍介氏(国土交通省) 自動車メーカーの取り組み例 木内 透氏(日本自動車工業会)	11:40 閉会

⑧ 交通安全対策の効果を予測する～交通シミュレーション活用～

5月20日(金) 13:00～17:15 アネックスホール F203+F204/2F

[テキスト:会場価格 3,000円 定価 4,200円(いずれも税込み)]

- 交通事故死傷者の削減は社会的課題であり、そのための車両安全対策、道路インフラ対策、ドライバー支援などの技術の開発が広く検討されている。効果的な安全対策の開発を合理的に進めるためには、その効果を事前に予測・評価するための基盤技術の開発が必要である。そのために、車両や道路側の安全対策による実際の交通環境における事故削減効果を、その普及段階に応じて、予測・評価するためのシミュレーション技法の開発が進められている。本フォーラムでは、実交通状況の把握、実交通状況を模擬する交通シミュレーション、模擬交通環境における交通事故予測シミュレーション、車両安全技術と信号交差点対策による交通事故削減効果の予測などについて論議する。

企 画:交通事故予測シミュレーション検定検討委員会

プログラム

司会: 樋口 世喜夫氏(早稲田大学)	15:30 ASSTREET を用いた事故再現による予防安全支援 システムの評価 持田 勤氏(トヨタ自動車)
13:00 挨拶 交通事故予測シミュレーション検定検討 委員会の活動について 柚原 直弘氏(日本大学)	16:00 US 事故データに基づく衝突軽減ブレーキの効果評価 杉本 洋一氏(本田技術研究所)
13:15 交通事故予測シミュレーション選定のガイドラインと評価 御室 哲志氏(秋田県立大学)	16:30 A Survey Simulator to Evaluate Safety Systems (ASSESS)によるブレーキアシストシステムの効果評価 森田 和元氏(交通安全環境研究所)
13:45 交通シミュレーション 北岡 広宣氏(豊田中央研究所)	17:00 挨拶 近森 順氏(自動車技術会名誉会員)
14:15 交通事故シミュレーション 田島 淳氏(アストジェイ)	17:15 閉会
15:00 信号交差点安全性定量評価シミュレーション 浅野 美帆氏(名古屋大学大学院)	

⑨ サステナブルな自動車材料技術～低環境負荷と魅力ある車の実現のために～

5月20日(金) 9:30～15:20 アネックスホール F205+F206/2F

[テキスト:会場価格 3,000円 定価 4,200円(いずれも税込み)]

- 地球環境問題や原油、材料費の高騰、レアアースの輸出規制、更には安全への意識の高まりなど近年、自動車を取巻く環境は一層厳しいものとなってきているのは言うまでもない。材料部門委員会では、鉄鋼、軽金属、化成品分野から自動車の発展に貢献する材料技術情報を広く報知する活動を行っている。今回は、“サステナブル”と“魅力”というキーワードを切り口に、環境、エネルギー、カーボンニュートラル、CO₂、資源、電気など、これからの材料技術への取り組みに焦点を当て、材料フォーラムを企画した。特に、近年、自動車離れが進み、クルマの魅力が失われつつある中、日本のクルマの価値、“魅力”という部分にも新たに焦点をあて、自動車製造に携わる関係者の参加のもと、今後の自動車材料技術の方向性を共有したい。

企 画:材料部門委員会

プログラム

司会: 谷口 庸一氏(三菱自動車工業)	9:35 環境と魅力を支える自動車材料 東 雄一氏(本田技術研究所)
9:30 挨拶 梅澤 修氏(横浜国立大学)	

- 10:05 次世代鋼製環境対応車 Future Steel Vehicle (1)
設計コンセプトと結果概要
橋本 浩二氏(新日本製鐵)
- 10:40 次世代鋼製環境対応車 Future Steel Vehicle(2)
最適化手法を活用した構造設計
稲積 透氏(JFE スチール)
- 11:05 次世代鋼製環境対応車 Future Steel Vehicle(3)
新材料と新工法による部品設計
渡辺 憲一氏(神戸製鋼所)
- 11:30 次世代鋼製環境対応車 Future Steel Vehicle(4)
～FSVを実現するための接合・組立技術～
福井 清之氏(住友金属工業)

- 司会: 上田 健次氏(日本アルミニウム協会)
- 13:00 自動車車体用アルミニウム合金の特性とその適用事例
吉田 正敏氏(神戸製鋼所)
- 13:30 自動車部品へのアルミニウム押出材の適用
熊谷 正樹氏(住友軽金属工業)
- 司会: 山下 敏氏(JSR)
- 14:10 オレフィン系熱可塑性エラストマーの機能付与と
その応用展開
神品 順二氏(JSR)
- 14:40 自動車用塗膜の付着性の解析
岩田 顕範氏(日本ペイント)
- 15:10 挨拶 小島 昌治氏(富士重工業)
- 15:20 閉会

⑩ 英国自動車フォーラム：英国における低炭素自動車技術の開発とテストについて

5月20日(金) 9:30～12:30 会議センターメインホール/1F

[テキストなし]

- 欧州で最も多くの電気自動車を製造し、低炭素自動車開発の革新的役割を担う英国。劇的な進展を遂げたここ数年の英国の技術開発／革新の多くをサポートするのは、英国政府の委託を受けている「Technology Strategy Board」である。ここでは「革新基盤プログラム」を設定、低炭素自動車に焦点を当て、民・官・研究者間で低炭素交通実現に向けた新しい商業的解決に取り組んでいる。その活動は、自動車のEV化やICE最適化などの広範な技術領域、小型車～バス・トラックの多様な車種を対象としており、企業間では低炭素自動車製造に関して協業し、サプライチェーンを開拓するに至っている。本フォーラムでは、200社が参加し、70超のプロジェクトが推進される当該プログラムの成果について、参加企業数社からお伝えする。

企画:国際委員会・英国大使館

プログラム(予定)

- | | |
|--|--|
| 9:30 Introduction
Christopher Pook 氏 (British Embassy Tokyo) | 11:05 HiTED – High Torque Electrical Drive
Richard Clark 氏(Magnomatics) |
| 9:35 Low Carbon Vehicle Innovation Platform
John Laughlin 氏(Technology Strategy Board) | 11:30 Development of an Ultra Lightweight Micro Gas
Turbine Range Extender
Paul Barrett 氏(Bladon Jets) |
| 9:45 Zero Emission London Taxi Commercialisation
Ashley Kells 氏(Intelligent Energy) | 11:55 Ultra-efficient Electrical Machines and Drives for
EV's and HEV's
Daiki Tanaka 氏(Nissan Motor) |
| 10:10 Hybrid Electric Technology For Transit Buses
Richard Bucknall 氏(University College London) | |
| 10:35 Integrating Advanced Combustion and
Aftertreatment Technology in a Passenger Car
and SUV/LDT Applications
Brian Cooper 氏(Ricardo) | |

⑪ 日中韓自動車フォーラム：アジアにおけるEV開発と普及～中国と韓国の動向～

5月20日(金) 13:00～15:30 会議センターメインホール/1F

[テキストなし]

- 中国を中心に急拡大したアジアは、最も重要な自動車市場として世界から熱い視線が注がれている。本会(JSAE)・中国汽車工程学会(SAE China)並びに韓国自動車技術会(KSAE)は、3極体制でアジアにおける自動車技術の普及・振興を支えていく重要性を認識し、今後、日中韓の各国において共同フォーラムを開催していく方針である。今回は、今最も注目される電気自動車の開発と普及に焦点を当て、技術動向・政府による普及施策・市場の反応・将来の展望について、最新情報をお伝えする。

企画:国際委員会(共催:中国汽車工程学会(SAE China)、韓国自動車技術会(KSAE))

プログラム

(中国:SAE China)企画

- (韓国:KSAE) Current Status of Eco-friendly Vehicles in Korea
Ki-Sang Lee 氏(Hyundai & Kia Motor Company)

⑫ カー・ロボティクス～モビリティの拡がりを支える先進技術～

5月20日(金) 9:30～12:15 会議センター503/5F

[テキスト:会場価格 3,000円 定価 4,200円(いずれも税込み)]

■ カー・ロボティクスは、3年前より自動車技術会とロボット学会が合同で立ち上げた「カー・ロボティクス調査研究委員会」が提唱しているもので、自動車とロボットを融合させ、新しい発展を期待しようという試みをしている。センサ、ECU、アクチュエータなどの構成が近い両者の技術融合により、移動のさらなる知能化が図られ、また新たなモビリティが発想され、提案されつつある。本フォーラムは、「カー・ロボティクス～モビリティの拡がりを支える先進技術～」と題して、自動車ばかりでなく、農業、建設・土木、航空・宇宙などの分野における研究開発者の方々に、最新の制御技術の動向と今後の展開などについて講演していただく。

企画:カー・ロボティクス調査研究委員会

プログラム

司会: 和田 隆広氏(香川大学)	10:55	ホイールローダの自律作業システム ～車体屈曲操向車両の走行制御～
9:30 挨拶 和田 隆広氏(香川大学)		皿田 滋氏(産業技術総合研究所)
9:35 世界初の挑戦 小惑星探査機「はやぶさ」の先端技術 久保田 孝氏(宇宙航空研究開発機構)	11:35	エネルギーITSにおける自動運転・隊列走行の 技術開発と産総研のパーソナルモビリティロボット 技術について
10:15 水田での農作業ロボット体系構築に向けて 玉城 勝彦氏(農業・食品産業技術総合研究機構)		加藤 晋氏(産業技術総合研究所)
	12:15	閉会

⑬ ヒューマトロニクスⅡ～人と調和するクルマ・機械・コンピュータを目指して～

5月20日(金) 13:00～16:40 会議センター503/5F

[テキスト:会場価格 3,000円 定価 4,200円(いずれも税込み)]

■ 人を理解することでクルマ・機械・コンピュータが調和するエレクトロニクスシステムである「ヒューマトロニクス」を基盤として、安心・安全、環境重視のグリーン化システムが研究されてきた。これらの基礎として、多種多様なユーザーに対するモデル化などの「人の理解に向けた技術」が必須となる。本フォーラムでは、第一人者である川島隆太先生に人の理解に向けた「脳活動の可視化と応用」、さらに、人の活性化につながるデジタルサイネージや、ぶつからない車などクルマの最新の安心・安全に関する複数の取組みについて、その分野の第一人者に分かりやすく講演していただく。

企画:エレクトロニクス部門委員会・ITS 部門委員会

プログラム

司会: 川合 誠氏(本田技術研究所)	15:20	体験を拡張する～好体験で笑顔が広がる エンタメ・デジタルサイネージ～
13:00 挨拶 山口 亨氏(首都大学東京)		中村 俊介氏(しくみデザイン)
13:05 人の理解へ向けて～「脳活動の可視化とその応用」 川島 隆太氏(東北大学)	16:00	安全技術の死角 北村 憲康氏(東京海上日動リスクコンサルティング)
司会: 鷲野 翔一氏(鳥取環境大学)		
14:40 先進運転支援システム EyeSight(アイサイト)(Ver.2)の紹介 松浦 宗徳氏(富士重工業)	16:40	閉会

モータスポーツフォーラム (どなたでも聴講無料. 参加登録不要)

5月19日(木) 9:30～11:30 会議センターメインホール/1F

企画:学術講演会運営委員会

司会:横 徹雄氏(東京都市大学)

挨拶:畑 秀二氏(マツダ)

『モータスポーツを介してEVの可能性を探る』

堀 郁夫氏(サミットレーシングプロモーションズ)

■ 電気自動車の日も早い普及と進化を促進する為には、限界まで挑戦するモータスポーツが最適な舞台と考え、過酷で歴史と伝統が有る「PIKES PEAK INTERNATIONAL HILL CLIMB」にオリジナルEVで参戦。ガソリン車を相手にクラス優勝、電気自動車世界新記録樹立を果たすまでの「TEAM YOKOHAMA EV CHALLENGE」の挑戦模様を紹介する。

『STI コンプリートカーとニュルブルクリンク 24 時間レース活動』

白鳥 文昭氏(スバルテクニカインターナショナル)

- ニュルブルクリンク 24 時間レースに参加する意義はレースに勝つことだけではなく、パフォーマンスパーツやコンプリートカーを世界一にするための技術を得る活動の場として有効と考えているからである。本講演ではコンプリートカーとレース活動の関係について紹介する。

『WGP250cc クラスから新時代 Moto2 クラスへ』

佐藤 朋則氏(ホンダ・レーシング)

- ホンダは 2009 年まで 2 ストローク 250cc レーサーにて WGP250cc クラスへ参戦してきた。また 2010 年は新世代 Moto2 クラスへ CBR600RR ベースのエンジンを供給した。本講演では 2 ストローク 250cc マシンと Moto2 クラス転換への経緯を紹介する。